

## 時限セキュリティ機能 PDFファイルに閲覧有効な「期限」と「回数」を付与設定できます。

制限を超えたPDFファイルは自動消去されるため、情報流出リスクを低減します。機密性を確保して電子文書（PDF）の独り歩きを抑止します。本機能はこれまで別売で販売していたオプション製品「Plugin TimerPDF（タイマー-PDF）」の機能を移植統合したものです。

### PDFファイルに「閲覧有効期限」と「閲覧回数」情報を付与設定する [設定方法]

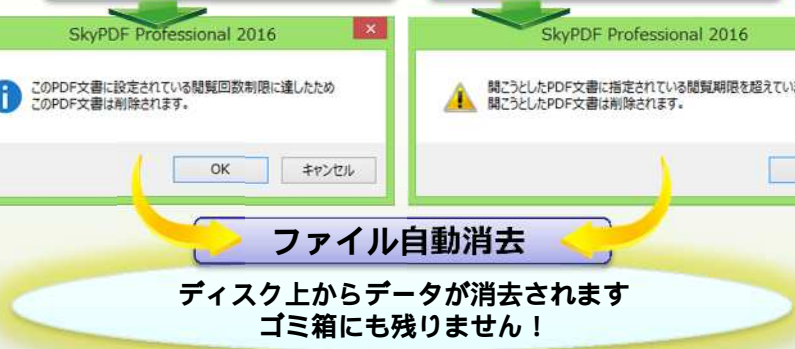
#### 閲覧回数

PDF作成時、閲覧できる有効回数を設定します。設定した回数に限りPDFファイルの閲覧が可能となります。設定した回数を超えると閲覧できなくなり、最終回閲覧後、PDFファイルを閉じる際にファイルが自動消去されます。

#### 有効期限

PDF作成時、閲覧できる有効期限を設定します。設定した期限内に限りPDFファイルの閲覧が可能となります。期限を過ぎると閲覧できなくなり、PDFファイルを開こうとすると、ファイルが自動消去されます。

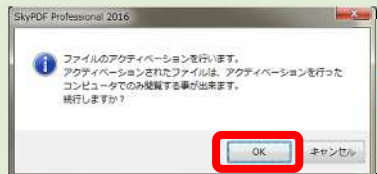
**【注意】**  
「回数」と「期限」両方設定した場合は、先に設定制限に達した時限セキュリティが有効となります。  
時限セキュリティ設定時の「回数」に「0」を設定することはできません。



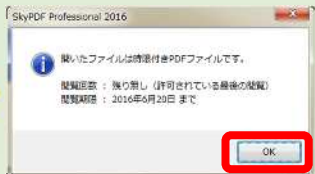
### 「閲覧有効期限」と「閲覧回数」情報が付与設定されたPDFを閲覧する [閲覧方法]

ファイルを開く際、メッセージが表示されます。

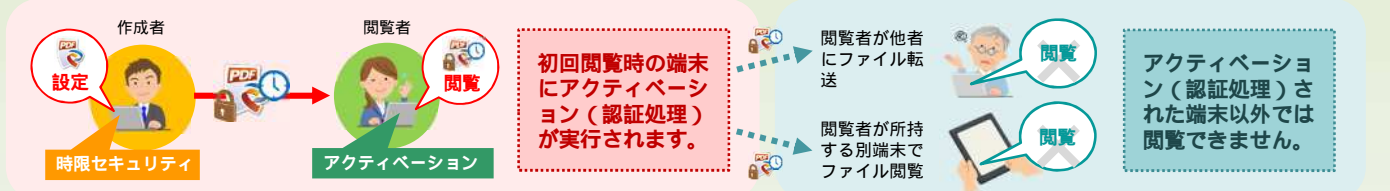
ファイルを開くことができます。



アクティベーション（認証処理）<sup>1</sup>を実行します。



1 アクティベーション（認証処理）



### 【お客様事例】 事務負担の軽減によって業務効率化が図られ、生産性向上に貢献！

**課題 Before**  
社内文書をPDFにして、期限を1年と定めて保管していたが、1年後に保管期限を過ぎたファイルをひとつずつ探し出し、手動で削除するという手間のかかる作業が発生してしまい、**業務に大きな負担**がかかっていました。



**解決 After**  
時限セキュリティ機能を使って保管するPDFの閲覧有効期限を1年後に設定。1年経過後にファイルを探し出す手間や手動での削除作業が無くなり、**事務負担の軽減**によって**業務の効率化**が図られ、**生産性向上**に貢献しています。

